

# ごあいさつ

## 「コープデリ サステナビリティレポート2018」

### 発行にあたって



理事長  
土屋  
敏夫

本レポートを手にとっていただき、ありがとうございます。

昨年(2017年6月)の総会において、組織の名称を「コープネット事業連合」から「コープデリ生活協同組合連合会」に変更し、事業分野の共同のみならず、地域社会への様々な活動分野においても会員生協とともに取り組みを進めて参りました。また、新たに新潟県の生活協同組合コープクルコを会員生協として迎え、2018年1月から事業を開始しました。あらためて、コープデリグループ1都7県の7会員生協の知恵と力を結集し、持続可能な社会の実現につながる取り組みを進め、事業と活動を通じて組合員のくらしに貢献してまいります。

日本では人口減少が続き、少子高齢化、人手不足、貧困・格差、コミュニティーの希薄化などによる社会への影響が深刻化しています。一方で世界では人口増加と食生活の変化による食料需要の逼迫が現実味を帯びてきています。地球環境とこれまで構築してきた社会経済のしくみが限界にきているという危機感が強まっています。このような状況を持続可能な方向へ転換させるために、深く多くの議論と着実な取り組みを進めなければなりません。

コープデリ連合会はフードチェーン全体で連携・協力しながら、持続可能な生産と消費の取り組みを進めています。商品が原料生産・加工製造から流通を経て消費者の手に届くまでには、多くの人々が関わり、また多くの資源を使っています。消費者が持続可能な視点で商品を選択するエシカル(倫理的)な消費行動を組合員とともに広げています。

地球温暖化防止は喫緊の課題です。事業におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減に向け、省エネの取り組みを基本とし、コープの施設に太陽光発電を設置するなど、再生可能エネルギー電気の創出と供給を積極的に進めています。

地域での見守り活動や、子育てや困りごとへの支援、フードバンク(ドライブ)、子ども食堂などの活動支援、世代間の交流、居場所づくりや学びの場の開催など、地域の実情に寄り添い、会員生協と諸団体の地域の皆さまと連携・協力しながら、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指しています。

私たちの「ビジョン2025」と方向性を同じくする「SDGs(持続可能な開発目標)」が、世界共通のものさしとして用いられています。これからもSDGsの「誰一人取り残さない、持続可能な社会の実現」につながる事業と活動を進めるとともに、“食卓を笑顔に、地域を豊かに、誰からも頼られる生協”を目指してまいりますので、よろしくお願いいたします。

コープデリグループのステークホルダー

対象期間

対象範囲

発行年月

組合員・消費者、職員、お取引先、地域社会、未来社会

特に断りの無い限り2017年度(2017年3月21日～2018年3月20日)のものですが、一部2018年度の活動も含んでいます。

コープデリグループ共通の取り組み、会員生協独自の取り組み、コープデリ連合会としての取り組みがあり、それぞれ本文で言及しています。

前回2017年10月 今回2018年7月 次回2019年7月予定